

# BUSINESS REPORT

# へんしも

第40期 第2四半期 [平成22年4月1日～平成22年9月30日]



グリーンカットマシン (GCL-23)



■高知県認定  
■環境配慮型事業所■

兼松エンジニアリング株式会社

証券コード：6402



代表取締役会長  
山本 吾一



代表取締役社長  
山口 隆士

## CONTENTS

- 1 ごあいさつ
- 2 財務ハイライト
- 3～4 財務諸表
- 5～6 事業概要
- 7～9 トピックス
- 10 会社情報

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第40期第2四半期決算のご報告として「BUSINESS REPORTへんしも」  
をお届けいたします。

### 【中期経営計画】

当期は、中期経営計画(3カ年)「未来への創造」の初年度であり、重点  
実施事項としまして

- 1.〈製品とサービス〉の創造による顧客価値の向上
- 2.〈技術と市場〉の創造による企業発展
3. 活力あふれる組織の創造

に取り組んでおります。

今一度原点に戻り「技術の兼松」を再構築し、「顧客信頼度“ナンバー 1”  
企業」となるべく取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し  
上げます。

平成22年11月

## [営業の概況等]

当第2四半期における我が国経済は、景気の回復傾向が伝えられているものの、為替市場の円高傾向等先行きの見えにくい状況で推移しております。

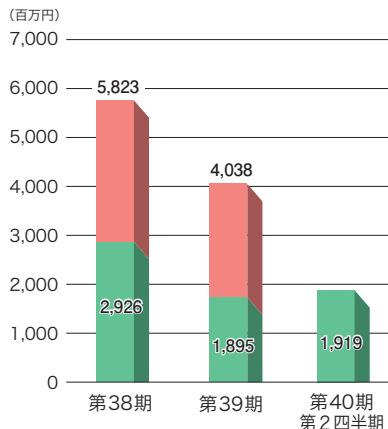
主な営業活動として、新たに独自の技術を採用した「乾式吸引作業車」のデモ車を製作し、「低騒音強力吸引作業車」・「浄化槽汚泥濃縮車」とあわせ全国にデモ展開してまいりました。

主力製品では、「強力吸引作業車」で設備投資に一部回復の傾向が見られます。特殊製品では、高速道路会社向けのトンネル洗浄水処理車を受注しております。また、既納の特殊製品に対して顧客からの再評価の動きも出ております。海外案件では、中国向け吸引作業車を受注しております。

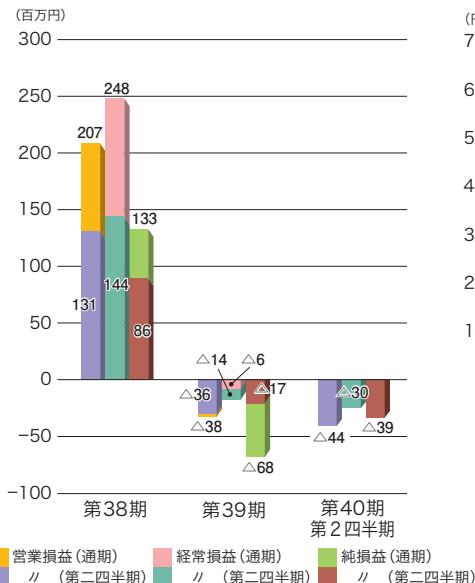
当第2四半期の業績は、全般に顧客の仕事量の低迷等から慎重な設備投資判断や競合の激化により、低調に推移しております。また引き続き、原価低減活動、販売費及び一般管理費の抑制等を実施しておりますが、利益を計上することができませんでした。

業績(数値)につきましては、前第2四半期に比べ受注高は114百万円増の2,347百万円(前年同四半期比5.1%増)、売上高は24百万円増の1,919百万円(前年同四半期比1.3%増)となりました。損益につきましては、営業損失44百万円(前年同四半期は営業損失36百万円)、経常損失30百万円(前年同四半期は経常損失14百万円)、四半期純損失39百万円(前年同四半期は四半期純損失17百万円)を計上することとなりました。

●売上高  
(グラフ下段は第2四半期)



●営業損益・経常損益・純損益



●1株当たり純損益  
1株当たり純資産



**●貸借対照表**

(単位:千円)

科 目	当第2四半期末 (平成22年9月30日)	前 期 末 (平成22年3月31日)	増 減 (△印減)
<b>(資産の部)</b>			
流動資産	2,121,694	2,177,128	△ 55,433
固定資産	2,111,063	2,116,450	△ 5,387
有形固定資産	1,824,291	1,831,465	△ 7,174
無形固定資産	11,123	7,661	3,462
投資その他の資産	275,647	277,323	△ 1,675
資産合計	4,232,757	4,293,579	△ 60,821
<b>(負債の部)</b>			
流動負債	1,377,674	1,345,137	32,536
固定負債	371,251	377,225	△ 5,974
負債合計	1,748,925	1,722,362	26,562
<b>(純資産の部)</b>			
株主資本	2,483,818	2,574,948	△ 91,130
資本金	313,700	313,700	—
資本剰余金	356,021	356,021	—
利益剰余金	1,815,870	1,906,678	△ 90,807
自己株式	△ 1,773	△ 1,451	△ 322
評価・換算差額等	14	△ 3,731	3,746
純資産合計	2,483,832	2,571,216	△ 87,383
負債純資産合計	4,232,757	4,293,579	△ 60,821

**資産の部**

総資産は、前事業年度末残高に比べ60百万円の減少となりました。これは主に、売上債権の減少33百万円及び現預金の減少25百万円等によるものであります。

**負債の部**

負債は、前事業年度末残高に比べ26百万円増加し、1,748百万円となりました。これは主に、仕入債務の減少71百万円はありましたが、借入金の純増加75百万円等によるものであります。

**純資産の部**

純資産は、前事業年度末残高に比べ87百万円減少し、2,483百万円となりました。これは主に、剰余金の配当51百万円及び四半期純損失の計上39百万円等によるものであります。

(注)記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

**● 損益計算書**

(単位:千円)

科 目	当第2四半期 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	前第2四半期 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	増 減 (△印減)
<b>売上高</b>	<b>1,919,892</b>	<b>1,895,673</b>	<b>24,218</b>
売上原価	1,493,710	1,503,709	△ 9,999
割賦販売未実現利益戻入額	3,275	2,953	321
売上総利益	429,457	394,918	34,539
販売費及び一般管理費	474,365	431,096	43,269
<b>営業損失(△)</b>	<b>△ 44,908</b>	<b>△ 36,178</b>	<b>△ 8,730</b>
営業外収益	16,075	22,832	△ 6,757
営業外費用	1,945	1,117	828
<b>経常損失(△)</b>	<b>△ 30,778</b>	<b>△ 14,462</b>	<b>△ 16,316</b>
特別利益	1,036	5,832	△ 4,796
特別損失	7,488	7,254	233
<b>税引前四半期純損失(△)</b>	<b>△ 37,230</b>	<b>△ 15,884</b>	<b>△ 21,346</b>
法人税、住民税及び事業税	1,562	1,857	△ 294
法人税等調整額	690	△ 306	996
<b>四半期純損失(△)</b>	<b>△ 39,483</b>	<b>△ 17,435</b>	<b>△ 22,048</b>

**売上高**

当社主力製品の強力吸引作業車が前年同四半期比1.2%減の1,193百万円、汚泥吸引作業車が19.7%増の26百万円、高圧洗浄車が20.8%減の168百万円となり当第2四半期売上は、1,919百万円となりました。

**四半期純損失**

前事業年度に引き続き原価低減活動等、全社的なコストダウンに取り組んでおりますが、競合激化による販売収益の減少により、四半期純損失39百万円を計上することとなりました。

**● キャッシュ・フロー計算書**

(単位:千円)

科 目	当第2四半期 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	前第2四半期 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 14,215	△ 34,740
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 63,690	△ 99,891
財務活動によるキャッシュ・フロー	22,763	△ 40,518
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 898	126
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 56,041	△ 175,025
現金及び現金同等物の期首残高	342,630	389,266
現金及び現金同等物の四半期末残高	286,589	214,240

(注)記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

当社は環境整備機器の製造販売を行っています。中でも産業廃棄物処理関係が主体であり、各種製品の特徴及び売上推移は、次のとおりです。

●強力吸引作業車・汚泥吸引作業車

売上高 1,219百万円

国内では大きなシェアを占め、産業廃棄物の収集運搬に用いられるとともに、様々な付加機能により用途を広げています。

- 廃棄物の収集運搬
- 高深度地下の汚泥回収
- 粉粒体の長距離吸引



強力吸引作業車(SME-04BVP)



超強力吸引作業車(SS-13BWP)



乾式吸引作業車(NS-13CVP)

●粉粒体吸引・圧送車

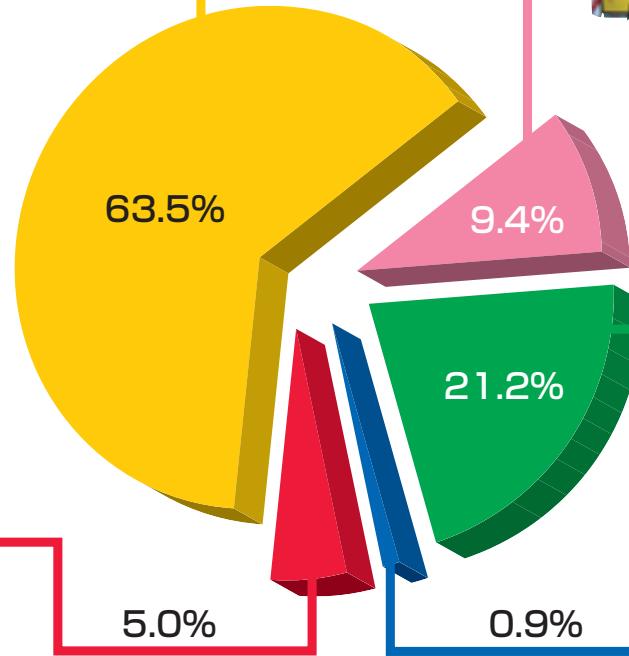
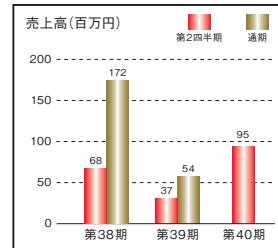
売上高 95百万円

吸引機能と加圧圧送機能を組み合せ、粉粒体の長距離・高揚程輸送を行います。

- 石灰・セメント等粉体原料の回収・リサイクル
- 焼却灰の回収運搬



粉粒体吸引・圧送車(SQ-13DWYT)



売上高合計 1,919百万円

売上高 179百万円 ●高圧洗浄車・ビルメンテナンス用清掃車・定置型高圧洗浄機

高性能の実現と誰にでも使用できる使い易さで市場に浸透しています。強力吸引作業車につぐ当社第2の主力製品となっています。

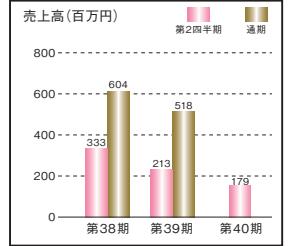
- 下水道管の洗浄
- ビル配管システムのメンテナンス
- 熱交換器の清掃



高圧洗浄車(JS-04S2320A)



高圧洗浄車(JS-05W2320K)

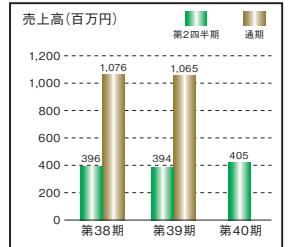


売上高 405百万円 ●新製品 ●部品販売・修理等

新製品やその他の区分に属さない製品及び部品販売・修理などが含まれています。



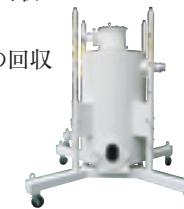
放水車(AR-100P)



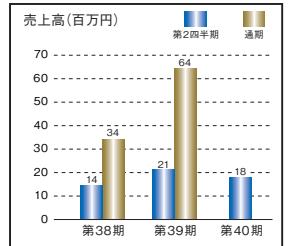
売上高 18百万円 ●定置型吸引機

当社技術の原点となる製品です。工場環境改善や省力化などに活用されています。

- 塗装プラストの回収
- 工場内清掃
- フライアッシュの回収



定置型吸引機(DEE-75SV)



## グリーンカットマシン (GCL-23)



### 特徴

- ドイツ、LADOG社製特殊シャーシに上物を架装しました。
- シャーシは油圧制御で駆動されており、超低速走行しながら上物機械をフル稼働出来る優れたもの!
- 今回はダム現場でのグリーンカット専用車として架装しましたが、別途油圧駆動の上物を乗せ替えての作業が可能です。

### グリーンカットとは?

面状に打設されたコンクリートは、時間が経つと上面にレイトンスと呼ばれるセメント等の微粒分が浮き上がります。そのまま打ち継ぐとコンクリートの付着が悪く、ダム建設において止水上の問題が起こる可能性があるため、まだ十分に固まっていない段階で、機械を用いてコンクリート上面を薄く削りとり、レイトンスを除去する作業のことをいいます。

## 改良型 ネオモバイル(NS-04CVP)



ブLOWER循環水が不要で、メンテナンスが楽な乾式吸引作業車ネオモバイルの改良型を製作しました。

### 特徴

- 水を使いません
- 高真空化・連続圧送を実現
- 環境にやさしい

【助手席側】



【運転席側】



### 改良点

- 独立していた2次キャッチャーとフィルターユニットを一体化し、キャブバックに横置きとして軽量化を実現しました。
- 吐出サイレンサーをフィルターユニット上部に配置することで省スペース化も実現しました。
- 縦型で上部に点検扉を取り付けておりましたが、横置きとしたことで点検扉の位置が低くなり、車両に上がらなくてもメンテナンスができるようになりました。

今後もお客様の声を生かして改良していきます。



デモ風景

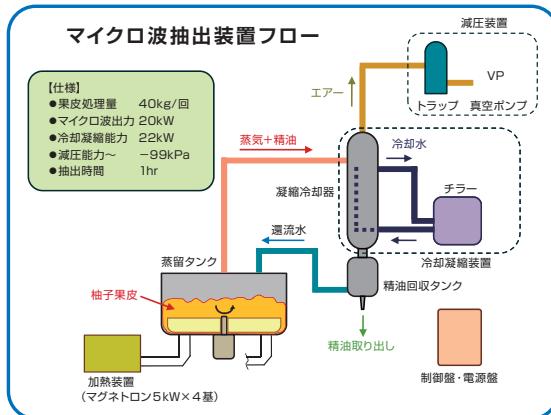
# マイクロ波抽出装置の開発

高知県の特産品である柚子の果皮(搾汁残渣)から精油を抽出するマイクロ波抽出装置を馬路村農業協同組合、高知県工業技術センターと共同で開発しました。装置開発は平成21年度経済産業省研究開発事業「地域イノベーション創出研究開発事業」の採択を受けて行ったものです。



マイクロ波抽出装置  
【特許出願中】

## 装置の仕組み



1. 柚子の皮にマイクロ波(電波)を当て、加熱します。
2. 精油を包む皮の細胞は破壊され、果皮に含まれる水分とともに蒸発します。
3. 蒸発した気体を上手く引き出し冷却すると、精油と水分を分離させて回収することが出来ます。

従来の水蒸気蒸留方法と比較して、高効率・低コストで高品質の精油を抽出可能です。

## 土佐・龍馬であい博メイン会場で精油展示中

H.22.1.16～H.23.1.10 TEL:088-879-6400

今後、柚子以外の柑橘類の精油や一般バイオマスの有用成分抽出につながる装置として開発を継続していきます。



本装置より抽出した精油をアロマオイルとして展示



## ● 会社の概要

設立年月日 昭和46年9月1日  
 資本金 313,700,000円  
 従業員数 154名  
 事業内容 強力吸引作業車、高圧洗浄車等  
 環境整備機器の製造販売

## ● 役員

代表取締役会長 山本 吾一  
 代表取締役社長 山口 隆士  
 取締役 山本 琴一  
 取締役 佃 維男  
 常勤監査役 沖田 雅夫  
 社外監査役 西岡啓二郎  
 社外監査役 平井 雄一

## ● 事業所

本社 〒781-5101 高知市布師田3981-7  
 TEL (088) 845-5511 FAX (088) 845-5211  
 明見工場 〒783-0007 高知県南国市明見913-11  
 TEL (088) 864-1506 FAX (088) 864-1167  
 技術センター 〒783-0007 高知県南国市明見898-20  
 TEL (088) 864-1771 FAX (088) 864-2032  
 東日本支社  
 東京支店 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町20-1 アンソレイエ・オオタ601号  
 TEL (03) 3667-7330 FAX (03) 3667-7333  
 東北・北海道支店 〒982-0012 仙台市太白区長町南4-12-27 NS泉崎2階  
 TEL (022) 248-2991 FAX (022) 248-2995  
 千歳営業所 〒066-0043 千歳市朝日町8-1206-51 釜田ビル2階  
 TEL (0123) 42-6661 FAX (0123) 42-6650  
 名古屋支店 〒452-0809 名古屋市西区花原町40  
 TEL (052) 501-3171 FAX (052) 501-3095  
 西日本支社  
 大阪支店 〒566-0064 大阪府摂津市鳥飼中2-2-43  
 TEL (072) 653-1136 FAX (072) 653-1350  
 中四国支店 〒739-0026 東広島市三永2-8-16 太田ビル1階  
 TEL (082) 426-2131 FAX (082) 426-2133  
 福岡支店 〒810-0001 福岡市中央区天神3-10-1 天神源氏ビル6階  
 TEL (092) 761-7761 FAX (092) 761-7760

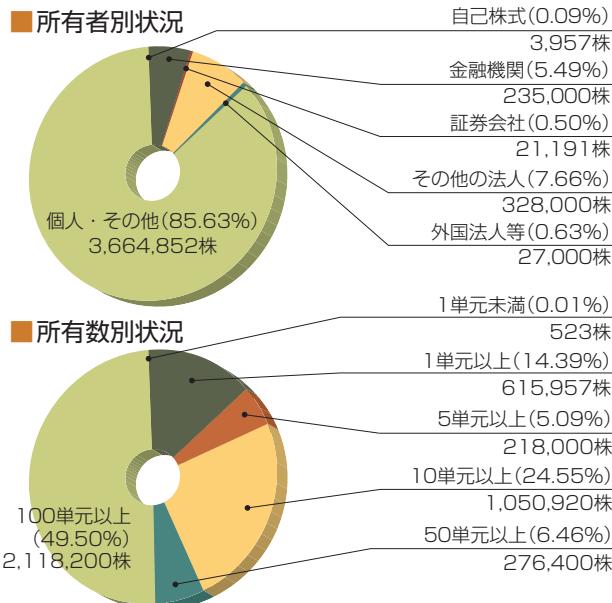
## ● 株式の状況

会社が発行する株式の総数 13,520,000株  
 発行済株式の総数 4,276,043株  
 (自己株式3,957株を除く)  
 株主数 538名

### 大株主

株主名	持株数	持株比率
兼松エンジニアリング従業員持株会	454,000株	10.61%
三谷浩溢	327,200株	7.64%
山本琴一	321,000株	7.50%
山口隆士	228,640株	5.34%
株式会社扇港鋼業所	224,000株	5.23%
山本吾一	195,200株	4.56%
柳川裕司	148,200株	3.46%
株式会社四国銀行	117,000株	2.73%
坂本洋介	102,960株	2.41%
板垣周	83,000株	1.94%

## ● 株式分布状況



## ●株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

### 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社

### 株主名簿管理人事務取扱場所

大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-176-417

(インターネットホームページURL)

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告掲載新聞 日本経済新聞

上場証券取引所 大阪証券取引所市場第2部

 兼松エンジニアリング株式会社

KANEMATSU ENGINEERING CO.,LTD.

本社 高知市布師田3981番地7 TEL:(088)845-5511 FAX:(088)845-5211

<http://www.kanematsu-eng.jp/>

   
古紙配合率100%再生紙  
このビジネスレポートは、環境に配慮し、再生紙と大豆油インキを使用しております。